

3 高血圧と肥満は将来の動脈硬化性変化の主要な危険因子である

— 木戸病院健診センター受診者 896 名の 5 年間の追跡調査より —

阿部江津子・津田 晶子*・矢田 省吾*
岡田 昌彦**

新潟医療生活協同組合木戸病院検査科
同 内科*
新潟大学大学院医歯学総合研究科予防
医療学分野**

我々は木戸病院健診センターにおいて、1996 年に健診を受診した 2,164 名 (M1,011/F1,153) を対象として、将来の動脈硬化性変化を引き起こす因子を探る為に新潟大学の検査診断学教室と共同の前向き調査を行っている。

【対象と方法】1996 年当時に基礎疾患が無く、2001 年にも受診し全ての調査項目についてデータの揃った 607 例 (M251/F356) について分析した。

新たな動脈硬化性病変の出現を①心電図の虚血性変化②総頸動脈の IMT ≥ 8 mm ③網膜の血管変化 \geq KW 分類 I で判定し、下記の調査項目について関連性を検討した。

【調査項目】年齢・性別・身長・体重・SBP・DBP・BMI・ECG・頸動脈エコー・眼底・GOT・GPT・T-C・TG・HDL-C・LDL-C・クレアチニン・FBS・HbA1c・インスリン・TSH・FT4・既往歴・家族歴・治療状況・喫煙歴・飲酒習慣。統計処理は SPSS によるロジスティック多変量解析で行なった。

【結果】新たに動脈硬化性変化の出現を認めたのは 421 名 (M178/F243 ; 69.4 %) で、変化を認めなかった 186 名 (M73/F113 ; 30.6 %) に比べ、高率であった。危険因子として最も影響の大きかったのは収縮期血圧で、血圧が 1 mmHg 上がると危険度は 2 % 増加し、2 番目は BMI で、1 増えると危険度は 0.8 % 増加することが分かった。

4 健診施設における糖尿病患者のスクリーニングと教育

田中 正美・山田 幸男・後藤紀代美
家合 淳子・斉藤 愛子・磯部 里美
岩原由美子

(財)新潟県保健衛生センター健康支援課

現在わが国の糖尿病患者は 740 万人で、その 60 % は治療、管理が不十分であり、その結果、糖尿病合併症による腎不全、失明は大きな社会問題となっている。合併症予防には、より早期からの糖尿病の予防、管理が大切である。我々は糖尿病教室として、2008 年 4 月から当センター受診者の希望者に、HbA1c 5.5 以上、尿酸 (十)、空腹時血糖 110mg 以上、随時血糖 140mg 以上 (従来 of 糖尿病診断基準では未だ糖尿病とされない人) に糖負荷試験等精密健診を行ったところ、66.4 % が糖尿病、または境界型糖尿病であり、より軽い基準 (HbA1c 5.2-5.4) の群でも約半数は境界型であり正常型でもほぼ全例にインスリン分泌異常がみられた。特に家族歴やメタボ、高血圧の人は注意が必要である。

2009 年 12 月まで、糖尿病教室参加者は 273 名であり、最初に糖尿病とは? という教育を行い、その後 2-3 カ月毎に追跡調査をしているが、検査値は経時的に改善している例が多く見られ、受診者から大変役に立った 34 %、役にたった 65 % という反応を頂いている。糖尿病発症予防、糖尿病合併症予防には、単に健診を行うだけではなく、その結果に基づく、より早期からの受診者教育、生活習慣改善指導が重要である。

5 新潟県糖尿病診療実態調査報告

上村 伯人

新潟県糖尿病対策推進会議

【目的・方法】新潟県における糖尿病患者の診療状況を調査するため、内科を標榜する 932 の医療機関に調査表を送付し、2009 年 3 月分につき調査・集計した。

【結果】501 施設 (回収率 53.8 %) の外来患者は 736,871 名であり、糖尿病患者は 99,006 名